

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 レポート指導		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 海津 庄平	実務経験	精神科の病院に 10 年ほど勤務。臨床心理士として主にカウンセリング・心理検査を実施	
高橋 洋美	実務経験	施設相談員 3 年、歯科衛生士として 3 年勤務	
授業の回数 105回	時間数 (単位数) 210 時間 (7 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士を目指す学生のレポートとしてふさわしい内容に仕上げる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に従ってレポートの完成を目指す。 ・不明な点は調べたり教員に質問したりして進めていく。 ・自分の考えを確立していく。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出期限内に提出し、大学の担当者から合格の評価を得る。 ・自分なりの考えをもち、それを自分の言葉で表現できる。 ・課題に求められた内容を理解してまとめることができる。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
<p>1～105</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の計画に従ってレポートを完成させる。 ・まとめ方等、困っている場合、相談に乗る。 ・完成後、以下の観点でレポートを添削指導する。 <p>①決められた書式になっているか</p> <p>②誤字脱字の有無</p> <p>③教科書や参考文献の提示の有無</p> <p>④内容の妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に沿った内容か ・自分の言葉で表現できているか ・論理的に順序良く構成しているか 			
[使用テキスト・参考文献]	各レポートに指定あり		
[単位認定の方法及び基準]	<ul style="list-style-type: none"> ・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <p>1. レポートの評価項目の点数を合計し 60 点以上 主題提示 (40 点) 構成 (30 点) 表現 (15 点) 用字 (15 点)</p>		

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 社会調査の基礎		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 前原 良彦		実務経験	なし
授業担当者		実務経験	(必修 ・ 選択)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会調査の基礎を踏まえたうえで、社会調査の意義と目的・倫理・統計法・量的質的調査・IT活用などに関する基礎的事項を分野横断的、体系的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会調査に関する基本知識を理解し、適切に説明、運用ができるようになる。</p> <p>そのため、を15回の授業の中で、1回につき1~2の重要ポイントをつかみ、自分のものとする。C-learning小テスト等を通して定着。またグループ学習を通じて、具体的調査事項を作成し、社会調査の基礎を確立する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の基礎に関する基本知識を理解し適切に説明できる。 2. 社会調査を具体的に理解し、その特徴を考察し、実際に社会調査を行える。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>第1回 社会福祉と社会調査・社会調査の歴史</p> <p>第2回 社会調査の対象と方法…量的・悉皆・質的・標本</p> <p>第3回 社会調査の対象と方法…無作為標本抽出・等間隔抽出・層化抽出・有意抽出</p> <p>第4回 調査回数と対象…横断式・縦断式・自計式・他計式</p> <p style="padding-left: 20px;">具体的調査方法…郵送法・直接面接法・電話インタビュー・留め置き法</p> <p>第5回 回答法・選択技法・データ(変数)の型と尺度</p> <p>第6回 調査票の作成…ダブル・バーレル、(イン)パーソナルな質問、キャリーオーバー</p> <p style="padding-left: 20px;">回答法・選択技法…自由・単数・複数・限定・回答法</p> <p>第7回 データ(変数)の型と尺度、測定(尺度)の信頼性・妥当性</p> <p style="padding-left: 20px;">測定(尺度)の水準…名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度</p> <p>第8回 集計と分析・コーディング・テキストマイニング・単純集計・記述統計</p> <p>第9回 質的変数(名義尺度・順序尺度)の分析度数・度数分布表・ヒストグラム</p> <p style="padding-left: 20px;">平均値・中央値・最頻値・分散と標準偏差・クロス集計・質的データ分析(QDA)</p> <p>第10回 散布図、相関、回帰・ピアソンの積率相関係数・統計的検定・カイ2乗検定</p> <p>第11回 質的調査の方法…面接法と観察法、構造化面接(構造化インタビュー)</p> <p style="padding-left: 20px;">半構造化面接(半構造化インタビュー)・非構造化面接(非構造化インタビュー)</p>			

第12回 観察法…参与観察法・アクション・リサーチ、非参与観察法、統制的観察法

第13回 事象見本法、時間見本法、調査における観察者の位置づけ

第14回 社会調査の実際…クローズアップ現代より 後期試験

第15回 社会調査のまとめと復習問題

[使用テキスト・参考文献]

社会調査の基礎 中央法規 ISBN978-4-8165-0400-6

社会福祉士国家試験のためのビューブック2020 医学評論社 ISBN978-4-89632-763-2

社会福祉士国試ナビ2020 中央法規 ISBN978-4-8058-5881-3

[単位認定の方法及び基準]

・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

1. 考查点(85%)

到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。

2. 平常点(15%)

・授業への参加状況では、C-learningの小テスト・ドリル・アンケート等を利用し、発言回数が複数回である点を評価する。(5%)

・提出課題(C-learningの小テスト・ドリル・アンケート等を利用)において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 社会福祉援助技術演習		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター18年	
授業の回数 16回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・事例を理解し、グループで互いの考え方を知り意見交換を経て相談援助者にふさわしい資質を向上させる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・事例研究から自分の考えを述べることができ、他者の考え方を理解できる。 ・ソーシャルワーク実践における主要な技術を習得する。 ・ソーシャルワークの過程における相談援助者の果たすべき役割を説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 多様性の理解 2. グループの理解 3. ネゴシエーション 4. ファシリテーション 5. アドミニストレーション 6. スーパービジョン 7. 地域の理解 8. アウトリーチ		9. ネットワーキング 10. ソーシャルアクション 11. 社会資源開発 12. インテーク・アセスメント 13. プランニング 14. モニタリング 15. エバリュエーション・ターミネーション 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習 ミネルヴァ書房	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。	

授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業のタイトル (科目名) 社会福祉援助技術論Ⅱ	授業の種類 (講義) 演習・実技	授業担当者 川本 公代	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の展開過程を順序立てて理解しそのポイントを把握する ・利用者との信頼関係の構築の方法と必要な技術を学ぶ ・さまざまなアプローチ方法を知りその特徴を捉える <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の展開過程のそれぞれの段階の重要点を説明することができる ・傾聴の意味を説明できて面接技術のポイントを実際に示すことができる ・アプローチ法を具体的に説明できる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の展開過程①ニーズ発見～インテーク (かかわり技法) 2 相談援助の展開過程②インテーク～アセスメント (エコマップ) 3 相談援助の展開過程③アセスメント～プランニング 4 相談援助の展開過程④アセスメント～エバリュエーション 5 面接技術 6 面接技術 7 グループを活用した相談援助 8 さまざまな実践モデルとアプローチ① 9 さまざまな実践モデルとアプローチ② 10 さまざまな実践モデルとアプローチ③ 11 スーパービジョンとコンサルテーション 12 相談援助における個人情報の保護・ICTの活用 13 相談援助の実際 事例 14 相談援助の実際 事例 15 相談援助の実際 事例 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ 弘文堂</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>筆記試験の60%以上の得点</p>	